



TITLE:

「学習サポートデスク」による留学生支援・学修支援事業 中間報告

AUTHOR(S):

京都大学図書館協議会第二特別委員会

CITATION:

京都大学図書館協議会第二特別委員会. 「学習サポートデスク」による留学生支援・学修支援事業 中間報告. 2020: 1-8

ISSUE DATE:

2020-03-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/250856>

RIGHT:

「学習サポートデスク」による留学生支援・学修支援事業 中間報告

【概要】

本事業は、国際化・多様化する学生への支援のために、留学生を含む大学院生をサポートスタッフとして雇用し、学習相談や講習会活動等を行うものであり、2016（平成 28）年度から開始した。

学習サポートデスクの本来の役割である学習相談については、利用指導に次いで件数が多く、特に 2019 年度に関しては、日本人からの学習相談が増えており、「学修支援」について一定の役割を果たしつつある。相談内容を仔細に見ると、レポートや論文の書き方、研究テーマの選び方に関する相談が多い。また、留学生ならではの相談内容として、日本語の習得法や大学院の外国人選抜試験に関する相談があった。

また、能動的に学生に働きかけることを企図して 2017 年度からは講習会の開催にも注力している。開催回あたりの参加者数は概して少なかったが、その要因として、広報・周知の不備が挙げられる。しかしながら多言語による開催という方向性自体は適切であると考えられる。

学習サポートデスクの活動自体は、学生にとってピアサポートの場として認知されている。一方で、本事業の目的である留学生支援を含め、サービスとしてまだ浸透していないことが数字でも表れている。スタッフとして勤務する大学院生自身は、人に教える・支援することにやりがいを感じており、自分の知識を改めて整理でき、良い経験になっていると捉えている。

本事業の当初から現在に至るまで、学習サポートデスクへの相談は必ずしも多いとは言えない。能動的に学生に働きかけることを企図して、2017 年度からは講習会に力を入れ始めているが、更なる工夫の余地があると考えている。今後も留学生が関心を持つテーマで、かつまた多言語で講習会を開催し、内容についてもいろいろと試していくべきであると考ええる。また、これまでの窓口相談の仕組みを維持しつつも、並行して、他の学習サポートの在り方も検討し、サポートの必要なより多くの学生に届く活動をすべきである。

1. 事業経緯

かつての留学生支援は、英語オリエンテーションや英語版利用案内等のほか、カウンターサービスの部分的な英語化等に留まっていた。2012（平成 24）年度に全学経費措置により東南アジア 3 各国における大学図書館学習サービス事情調査を実施した結果、より具体的・個別的に必要とされている支援を展開するには、(1)常時英語で学習相談（図書館利用や文献探索に関する案内、レポート作成法の助言、専門カウンターへの繋ぎ等）が受けられる場所、(2)可能であれば、英語に加えて母国語での支援、(3)講習会や案内資料の企画・作成におけるネイティブスピーカーの支援監修、が必要であるとの結論を得た。その方策として、

2013（平成 25）年に附属図書館ラーニング・コモンズ内に学生によるピアサポートを活用した学習支援を行う「学習サポートデスク」を設置し、図書館機構が目標として掲げている、利用者への人的支援の充実に努めてきた。本事業は、それまでの活動を継承しつつ、国際化・多様化する学生への支援のために、留学生を含む大学院生を学習サポートデスクのスタッフとして雇用し、学習相談や講習会活動等を行うものであり、2016（平成 28）年度から始まった。

2. 業務概要

従来から、以下の活動を行ってきた。

- 1) 学習サポート：学習相談、所蔵調査、利用指導等
 - 2) 講習会・イベント：レポート執筆講座、図書館ツアー、オープンキャンパス対応等
- 上記の他に、館内サイン・利用者向け配布資料等の英訳、英文チェック、イベント広報等も行っている。

2016（平成 28）年度に関しては以下の活動を行っている。

1) 学習サポート

学習相談について予約制度を設けた。

2) 講習会等

以下の講習会等を行った。

- ・留学生対象図書館ツアー（前・後期）
- ・オープンキャンパスイベント「学習サポートデスクの先輩と話そう」
- ・「大学院生の先輩が教える 「私はこうやって良いレポートを書いてきた！」」
- ・「研究者としてのキャリアデザイン」（学術研究支援室との協働イベント）

2017（平成 29）年度に関しては以下の活動を行っている。

1) 学習サポート

2) 講習会等

以下の講習会等を行った。

- ・留学生対象図書館ツアー（前・後期）
- ・レポート執筆講座（前・後期）
- ・オープンキャンパスイベント「学習サポートデスクの先輩と話そう」
- ・文献検索入門講座（中文版）
- ・「研究のいろは ～科学的分析とは」

2018（平成 30）年度に関しては以下の活動を行っている。

1）学習サポート

2）講習会等

新規にプレゼンテーションの講習会を開催するとともに、レポート執筆講座のうち一部について、英語と中国語で開催した。これらを含め以下の講習会等を行った。

- ・留学生対象図書館ツアー（前・後期）
- ・レポート執筆講座（前・後期）（後期は「卒論ブラッシュアップ講座」という名称で開催）
- ・オープンキャンパスイベント「学習サポートデスクの先輩と話そう」
- ・プレゼン講座
- ・LaTeX hands-on practice in English
- ・LaTeX PC 実習講座
- ・論文支援講座（中文版）
- ・実験レポートの書き方講座

2019（令和元）年度に関しては以下の活動を行っている。

1）学習サポート

2）講習会等

新規に「留学生にもよくわかる学振 DC 申請講座」を開催し、また「留学生学習サポート強化週間」と銘打って、複数の講習会について英語、中国語、韓国語、インドネシア語で開催した。これらを含め以下の講習会等を行った。

- ・留学生対象図書館ツアー（前・後期）
- ・レポート執筆講座（前・後期）（後期は「留学生学習サポート強化週間」という名称で開催）
- ・オープンキャンパスイベント「学習サポートデスクの先輩と話そう」

3. 統計等

表1 スタッフ数

2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
6(1)	7(3)	9(3)	10(4)

※丸括弧内は留学生スタッフ数で内数

表2 相談件数1（事項別）

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度 (2019.12 まで)
学習相談	35	76	53	81
資料調査	11	12	9	6
利用指導	282	133	118	81
その他	41	10	20	2
不明	1	0	0	0
合計	370	231	200	170

表3 相談件数2（相談者別）

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度 (2019.12 まで)
留学生	64	42	11	12
留学生以外	306	189	189	158
合計	370	231	200	170

表4 相談件数3（時間帯別）

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度 (2019.12 まで)
13：00-16：00	200	131	80	99
16：00-19：00	170	100	120	71
合計	370	231	200	170

表5 相談件数4（事項-相談者別）

		2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度 (2019.12 まで)
学習相談	留学生	6 (9%)	20 (48%)	6 (55%)	2 (17%)
	留学生以外	29 (9%)	56 (30%)	47 (25%)	79 (50%)
資料調査	留学生	4 (6%)	6 (14%)	2 (18%)	2 (17%)
	留学生以外	7 (2%)	6 (3%)	6 (3%)	4 (3%)
利用指導	留学生	46 (72%)	15 (36%)	3 (27%)	8 (67%)
	留学生以外	236 (77%)	118 (62%)	115 (61%)	73 (46%)
その他	留学生	8 (13%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)
	留学生以外	33 (11%)	9 (5%)	21 (11%)	2 (1%)
不明	留学生以外	1	0	0	0
合計		370	231	200	170

※下段丸括弧内の数値は、相談者別の相談事項ごとの割合。小数点以下1位で四捨五入。

表6 学習相談例

年月	相談内容
2017 年 3 月	中国人留学生で、論文執筆の際の注意点について尋ねて来られました。
2017 年 5 月	ご自身の学術論文を日本語に訳してくれる翻訳者を探したい
2017 年 5 月	論文テーマについてさんざん悩んで、アドバイスを送ってほしいとのご相談
2017 年 5 月	学振特別研究員に関するご相談
2017 年 6 月	主に研究者としての歩み、キャリアデザインなどについて相談
2017 年 6 月	日本語による論文作成に関するご相談
2017 年 6 月	小論文とレポートの違い、小論文の書き方について教えてほしい
2017 年 7 月	入試問題の小論文の執筆方法や、修士課程の過ごし方など
2017 年 7 月	日本語の勉強法と本学の日本語授業の聴講方法について
2017 年 7 月	日本語習得から研究者としてのキャリアデザインまで

2018 年 10 月	古典日本文学の研究をしている留学生で、自然言語処理の手法を自分の研究に応用したい
2018 年 12 月	学習の進め方についてでした。具体的には、レポート提出を求められる授業への取り組み方について
2019 年 2 月	論文の構成について
2019 年 4 月	日本語講座を取っている留学生。翌日に行う予定の日本語スピーチの原稿にコメントが欲しい
2019 年 6 月	オーストラリアの大学からの中国人留学生。京大の教育学研究科の修士課程に入りたいが、手続きはどうすればいいか

表 7 講習会等開催状況

名称	期間	回数	参加者数
留学生対象図書館ツアー（前期）	2016.4.11-4.21	21	不明
オープンキャンパスイベント「学習サポートデスクの先輩と話そう」	2016.8.9-8.10	2	60
留学生対象図書館ツアー（後期）	2016.10.12-10.18	10	不明
「大学院生の先輩が教える 「私はこうやって良いレポートを書いてきた！」」	2016.11.28,11.30	2	1
「研究者としてのキャリアデザイン」	2017.3.15	1	15
留学生対象図書館ツアー（前期）	2017.4.12-4.20	7	9
レポート執筆講座（前期）	2017.6.26-6.30	14	80
オープンキャンパスイベント「学習サポートデスクの先輩と話そう」	2017.8.9-8.10	4	163
留学生対象図書館ツアー（後期）	2017.10.10- 2017.10.13	8	23
レポート執筆講座（後期）	2017.10.16-10.20	14	40
文献検索入門（中文版）	2017.12.6	1	20
「研究のいろは ～科学的分析とは」	2018.3.6,3.19	2	13
留学生対象図書館ツアー（前期）	2018.4.9-4.23	10	21
レポート執筆講座	2018.6.20-6.26	13	38
プレゼン講座	2018.7.17	1	5
オープンキャンパスイベント「学習サポートデスクの先輩と話そう」	2018.8.9-8.10	4	126
留学生対象ツアー（後期）	2018.10.9-10.12	8	26

卒論ブラッシュアップ講座	2018.10.15-10.19	15	25
LaTeX hands-on practice in English	2018.10.30-10.31	2	13
論文支援講座	2018.11.28-11.30	2	17
LaTeX PC 実習講座	2018.11.27	1	6
実験レポートの書き方講座	2018.12.6	2	4
留学生にもよくわかる学振 DC 申請講座	2019.4.24	1	24
レポート執筆講座	2019.6.24-6.28	20	63
留学生学習サポート強化週間	2019.10.28-11.15 2019.12.2-12.12	15	32

2019 年 5 月 1 日現在で、本学の留学生（科目等履修生、研究生等を含む）の総数は 2,732 人、留学生以外の学生の総数は 20,505 人であるが、これに対し本事業の学習相談と資料調査の利用件数が最大であった 2017 年度で見ても、留学生は 0.9%、留学生以外の学生も 0.9%にとどまり、学習サポートデスクの相談利用は非常に少ない。

表 2 を見る限り、利用指導の件数が一番多いが、ここで述べている利用指導には、施設・設備の使い方といった相談が含まれている。学習サポートデスクの本来の役割である学習相談については、利用指導に次いで件数が多く、特に 2019 年度に関しては、日本人からの学習相談が増えており、「学修支援」について一定の役割を果たしつつある。留学生に限定すると、実は、留学生ラウンジ「きずな」とは広報等で協力しているが、生活相談は「きずな」、学習相談は「学習サポートデスク」を互いに斡旋するようにしている。そのことも関係してか、この相談内容を仔細に見ると、レポートや論文の書き方、研究テーマの選び方に関する相談が多い。また、留学生ならではの相談内容として、日本語の習得法や大学院の外国人選抜試験に関する相談があった。学習サポートデスクのスタッフによる日報によれば、リピーターも存在したようである。

2017 年度から講習会の開催に注力しており、相談利用が少ない一方で、講習会参加者は最初の頃より増えており、講習会のテーマもより多様になっている。2018 年度は利用者からの相談内容を勘案し、英語と中国語による留学生向けのレポート講座を開催した。2019 年度は、留学生学習サポート強化週間と銘打って、従来のレポート講座（文献の探し方、LaTeX、学術的な日本語等）について、更に多言語（英語、中国語、韓国語、インドネシア語）で行った。言語については留学生が多い国の言語を選んでいる。1 回目を 10 月末～11 月に開催したが、多くても、中国語による各講座の 5～7 人であり、英語による講座は 0～3 人、インドネシア語 1 人、韓国語 0 人という状況であった。2 回目は 12 月に開催したが、この時は英語による LaTeX 講座を 4 回開催し、0～5 人の参加があった。開催回あたりの参加者数は概して少なかったが、その要因として、担当者間では広報・周知の不備が挙げられており、周知期間や広報対象等、見直しを図る必要がある。

なお、2019 年 4 月には学習サポートデスクスタッフの発案企画として、「留学生にもよくわかる学振 DC 申請講座」を実施したが、来場者が 24 人と比較的数量多く、質疑応答も熱心に行われ、このテーマに対する関心の深さが伺えた。

4. スタッフアンケート

学習サポートデスクのスタッフに対し、学習サポートデスクで学生と接してスタッフとしてどのように感じているかを問う簡単なアンケート調査を行った。

対象者 10 名中 7 名から回答があった。学習サポートデスクの活動が学生の学修に役立っているか、という問いに対しては、5 名が役立っていると感じており、例えば講習会で「自力で類似課題を解けるようになったり、自分で誤りを訂正できるようになったりしたところを見たとき」や何度も学習サポートデスクに相談に来た時に、そのような実感を得ている。一方で役立っていないと感じている理由として、デスクの利用者が少ないこと、相談内容が学習サポートデスクでなければ答えられないようなものではないことが挙げられている。更に学習サポートデスクの活動が今度はスタッフ自身の役に立っているか尋ねたところ、例えば、講座の準備をする過程で論文の書き方について体系的に学べた、プレゼンテーションの練習になった、自分の知識を分かりやすく伝えるスキルを習得できた等、7 名全員が役に立っていると実感している。

5. まとめ

学習サポートデスクの活動自体は、学習相談の件数が増えてきていることから、学生にとってピアサポートの場として認知されている。一方で、本事業の目的である留学生支援を含め、サービスとしてまだ浸透していないことが数字でも表れている。スタッフ自身は、人に教える・支援することにやりがいを感じており、自分の知識を改めて整理でき、良い経験になっていると捉えている。特に留学生スタッフは、留学生の相談してくる内容が、自身も一度は経験したことであるだけにその念は強い。また、2019 年 4 月の「留学生にもよくわかる学振 DC 申請講座」のように、企画の発案を行い、実施できるまでに成長していることも見て取れる。

能動的に学生に働きかけることを企図して、2017 年度からは講習会に力を入れ始めているが、講習会については、更なる工夫の余地があると考えている。今後も留学生が関心を持つテーマで、かつまた多言語で講習会を開催し、内容についてもいろいろと試していくべきであると考え。並行して、他の学習サポートの在り方も検討し、サポートの必要なより多くの学生に届く活動をすべきである。